

代表質問から

財政

国・県の予備費や補正予算を踏まえ、県は十二月補正予算をどのような考え方で編成したのか。

国・県の経済対策のうち、「経済危機対応・地域活性化予備費」に係る事業を計上することと、ひたたくり犯罪の検挙・抑止など、緊急的な課題に対応することを基本として編成した。

交通

人事委員会勧告に基づく給与改定や国の補正予算に伴う地方交付税の追加などを受け、県の平成二十二年度の収支見通しはどうか。

収支の見通しについては、今後、二月補正の段階で明らかにしていく。その際、持続可能な財政構造の確立に向け、地方債の減額や将来の財政需要を見据えた基金の積立に努めていく。

救命救急センターの財政負担

公立の救命救急センターの財政負担について、何らかの支援が必要と思われるがどうか。

公立の救命救急センターに対する補助については、国の三位一体改革により交付税措置等に変更された。しかし、従前の補助金に見合った財政措置がされていないという意見があったことから、毎年度、国に対し、十分な財政措置を行うよう要望を続けてきた。

福祉

高齢者の孤立化を防ぐために、県として市町村に対してどのような支援策を講じることができるのか。

市町村と連携し、課題の把握や解決に向けて協働する「地域福祉フォーラム」の設置促進に取り組んでいる。

また、民生委員に対し、「高齢者の孤立・孤独を防ぐ取り組み」など、課題に対応した研修を実施し、円滑な活動を支援していきたい。

中小企業支援

中小企業の資金繰り支援策に大きな効果がある緊急保証制度の打ち切りにより、通常の責任共有制度による金融機関の貸し渋りが懸念される。千葉県として、中小企業に対する金融支援策が必要であると考えられているがどうか。

原則全業種を対象として実施されてきた「緊急保証制度」が、三月に期限を迎える。その後の支援策として、

①保証対象業種の見直しは行うが、特に業績の悪い中小企業に対する「セーフティネット保証」の継続

②返済額の負担軽減のための借換保証の拡充・促進

などの施策を講じると聞いている。

なお、本県では、独自の貸付制度を設けている。今後は、この制度の活用を図るとともに、金融機関に対し、引き続き中小企業への円滑な資金供給を行うよう要望していく。

鬼涙山

富津市鬼涙山国有林の山砂採取問題について、知事は今回の審議会報告を遵守すべきと考えるがどうか。

自然環境を守り、未来の子どもたちに引き継いでいくことは、現代を生きる私たち世代に課せられた大きな責任と考える。土砂採取対策審議会報告書による会長の所見には、「現時点では、国有林からの山砂採取に係る県の基本的な考えを見直すまでの状況には至っていない」とされており、同様に考えている。

社会基盤整備

橋梁長寿命化対策の状況はどうか。

今後、橋梁の維持管理費が急激に増加していく。このことから、橋梁の維持管理を効率的かつ効果的に展開していくため「千葉県橋梁長寿命化修繕計画」を策定した。本計画は、損傷が顕在化した後に補修を行う事後的な修繕から、顕在化する前に対策を講ずる予防的な修繕に転換を図ることを目的としている。

防犯

千葉県のひたたくりの発生は全国一位とのことだが、ひたたくり事件発生状況の分析と、それを踏まえた県警の対応についてはどうか。

本県のひたたくり発生件数は、全国最多となっている。発生状況は、地域的には京葉・東葛地区での発生が全体の九十四%を占める。時間別では午後六時から午前零時までの間に約六十二%が発生している。被害者は、女性が約九十四%、

三番瀬

三番瀬再生会議の見直しの検討状況はどうか。また、今後どのように三番瀬の再生を進めていくのか。

三番瀬の再生は、県と地元四市との連携の下で、行政が主体的に取り組んでいくことが重要である。

このため、「専門的な見地から助言等を行う学識経験者によ

子育て支援

待機児童解消のための保育

所整備について、どのように進めようとしているのか。

平成二十二年十月一日現在の待機児童数は、速報値で二千六百五十二人と、昨年同月に比べ百九十人増加している。

県では、国の安心こども基金を活用し、保育所の緊急整備を実施し、さらに県独自の乗せ助成を行い整備を促進してきた。平成二十二年度に、予定どおり施設整備が完了すると、二十一市町五十九カ所、約二千七百人の定員増となる見込みである。平成二十三年度においても約二千二百人の定員増を計画しており、今後も待機児童の多い都市部を中心に重点的に整備を進めていく。

全県的な救命救急医療を提供したいと考えている。

高年齢者の孤立化を防ぐために、県として市町村に対してどのような支援策を講じることができるのか。

市町村と連携し、課題の把握や解決に向けて協働する「地域福祉フォーラム」の設置促進に取り組んでいる。

また、民生委員に対し、「高齢者の孤立・孤独を防ぐ取り組み」など、課題に対応した研修を実施し、円滑な活動を支援していきたい。

さらに、認知症の高齢者や家族に対し、地域住民による見守りネットワークや医療と福祉・介護関係者の連携など、地域における支援体制を構築するためのモデル事業を、県内三市において実施している。今後は、その成果を各地域に普及していく。

富津市鬼涙山国有林の山砂採取問題について、知事は今回の審議会報告を遵守すべきと考えるがどうか。

自然環境を守り、未来の子どもたちに引き継いでいくことは、現代を生きる私たち世代に課せられた大きな責任と考える。土砂採取対策審議会報告書による会長の所見には、「現時点では、国有林からの山砂採取に係る県の基本的な考えを見直すまでの状況には至っていない」とされており、同様に考えている。

今後、橋梁の維持管理費が急激に増加していく。このことから、橋梁の維持管理を効率的かつ効果的に展開していくため「千葉県橋梁長寿命化修繕計画」を策定した。本計画は、損傷が顕在化した後に補修を行う事後的な修繕から、顕在化する前に対策を講ずる予防的な修繕に転換を図ることを目的としている。

本県のひたたくり発生件数は、全国最多となっている。発生状況は、地域的には京葉・東葛地区での発生が全体の九十四%を占める。時間別では午後六時から午前零時までの間に約六十二%が発生している。被害者は、女性が約九十四%、

具体的な抑止策として、街頭パトロール活動の強化と、注意喚起の一声を掛け、防犯意識の高揚を図る。

ひたたくり防止カバー・ネットを配布し、防犯対策を講じる。

駅などの施設内で、アナウンスやチラシの掲示などを行う。

移動交番車の活用や防犯キャンペーンの開催等、あらゆる機会を通じ、被害防止に向けた広報啓発運動を実施する。

知事の出演したビデオメッセージを活用した広報啓発活動を行う。

ひたたくり多発警察署に対し、本部の捜査員や機動隊員を派遣し街頭活動を強化する。

などに、取り組んでいる。

検挙対策としては、事件発生直後に、組織の総合力を発揮した初動捜査を展開し、犯人を現行犯的に逮捕する。また、証拠物や目撃証言などの確保、鑑識活動の徹底などの対策を推進している。

なお、「ひたたくり緊急対策事業」として、十二月補正予算において捜査用自動二輪車などを要求した。事件が発生している警察署を中心に配備し、犯罪の検挙・抑止対策を強化していく。

